

## 肝がん・重度肝硬変研究治療促進事業の見直しについて

### 1 改正時期

令和3年4月1日から適用

### 2 改正の要旨

#### 主な改正の要点

##### 【助成対象関係】

（**現行**）肝がん・重度肝硬変で保険医療機関に入院して自己負担額が高額療養費の基準額を超えた月が1年間で3か月以上となった場合に、4か月目から指定医療機関での入院治療費を対象とする。

（**改正案**）当事業の参加者数が少ないこと（1年に4月以上入院する患者は、極めて状態の悪い患者であると考えられるため）、また、分子標的薬による通院治療を受ける患者が増えて来ていることから、①通院治療等（「分子標的薬を用いた化学療法」又は「肝動注化学療法」に限る。）の対象化を新たに追加、及び、②対象月数の短縮（「入院4月」から「入院若しくは通院3月」）。

改正後	改正前
<p><b>【指定医療機関】</b></p> <p>①肝がん重度肝硬変入院医療が実施できる保険適用病院（入院等指定医療機関）。</p> <p>②肝がん外来医療（<u>「分子標的薬を用いた化学療法」又は「肝動注化学療法」による通院医療</u>）を実施できる保険医療機関（①を除く）。</p> <p><b>【助成方法】</b></p> <p>・入院治療費は現物給付、<u>通院治療は償還払</u>。</p> <p><b>【対象医療】</b></p> <p>・肝がん重度肝硬変入院医療に加えて、<u>肝がん外来医療（「分子標的薬を用いた化学療法」又は「肝動注化学療法」による通院医療）を追加</u>。</p> <p><b>【助成対象月・対象医療】</b></p> <p>・保険医療機関において肝がん・重度肝硬変入院医療・<u>通院医療</u>が行われた月以前の12月以内に<u>肝がん・重度肝硬変関係医療（「分子標的薬を用いた化学療法」又は「肝動注化学療法」による通院医療を含む）</u>（一部負担額が高額療養費算定基準額を超えるものに限る。）を受けた月数が既に<u>3月以上</u>ある場合で、<u>指定医療機関において、重度肝硬変入院医療・通院医療を受けた月のもの</u>。</p> <p><b>【助成額】</b></p> <p>・肝がん重度肝硬変入院医療、<u>肝がん外来医療（「分子標的薬を用いた化学療法」又は「肝動注化学療法」による通院医療）</u>について、高額療養費を差し引いた後の自己負担額の<u>1万円を超える金額を助成</u>。</p>	<p><b>【指定医療機関】</b></p> <p>・肝がん重度肝硬変の入院治療が実施できる保険適用病院（<u>指定医療機関</u>）。</p> <p><b>【助成方法】</b></p> <p>・入院治療費の現物給付。</p> <p><b>【対象医療】</b></p> <p>・肝がん・重度肝硬変入院医療</p> <p><b>【助成対象月・対象医療】</b></p> <p>・保険医療機関において肝がん・重度肝硬変入院医療が行われた月以前の12月以内において<u>肝がん・重度肝硬変入院関係医療</u>（一部負担額が高額療養費算定基準額を超えるものに限る。）を受けた月数が既に<u>4月以上</u>ある場合で、<u>指定医療機関において、重度肝硬変入院医療を受けた月のもの</u>。</p> <p><b>【助成額】</b></p> <p>・指定医療機関が行った肝がん・重度肝硬変入院医療について、高額療養費を差し引いた後の自己負担額の<u>1万円を超える金額を助成</u>。</p>